

## 寺田縄界限の野鳥（４）      こんな顔をしています。

寺田縄地域を散歩の途上、よく見かける鳥たちです。    顔つきを見てください。

### 1、ツバメ



(撮影地：古鍋島)

なじみの深い野鳥です。  
東南アジアで越冬し、春になると日本へ渡ってきます。

特に子育ての時期、あちこちで飛んでいる小さな羽虫を猛スピードで捉える姿が見られます。

スピードを生み出すスマートな姿と顔つきがぴったりです。

### 2、モズ



(撮影地：鈴川)

10～20 cmの小型の鳥で、日本では北海道から九州まで分布しています。

バッタ、カエル、昆虫などを食べ、くちばしはかぎ型をしています。捉えた獲物を生け垣などに串刺しにすることもあります。

一見、可愛い顔をしています。反面、むごさもあります。

### 3、ムクドリ



九州以北の人家近くの林で繁殖することが多く、農耕地や草地で見かけます。

雑食性で種子、柿などの果物、虫の幼虫などを好んで食べます。鋭いくちばしが物語っています。

木立で群れたり、ねぐらに帰る時など、数えきれないほどの大群が大声を上げて、移動してゆきます。

(撮影地：寒川)

### 4、ヒバリ



頭に冠羽を乗せた愛嬌のある顔つきをしています。

草原、河原、農耕地に棲み、雑食性で主に種子、昆虫、クモ等も食べます。

繁殖期、オスは空高く飛び、休まない高い音のさえずり（揚げ雲雀）で縄張りを主張します。

(撮影地：寺田縄)

## 5、ダイサギ



(撮影地：鈴川)

サギの仲間は、ダイサギ・チュウサギ・コサギ・アオサギなどに分類されます。

見分け方は、体の大きさはもとより、くちばしの色、くちばしの切れ込みの程度、足先の色などです。

写真のサギは、冬のくちばしが黄色（夏には黒色）、くちばしは目の後ろまで切れ込んでいるので「ダイサギ」です。首はツルのように長く、S字型にしていることを見かけます。

渡り鳥ですが、冬には南に渡る種と日本で越冬する種があり、通年見ることができます。

魚、アマガエル、昆虫、時には鳥類までも捕食します。

長く鋭いくちばしで食べ物を捉えます。

## 6、トビ



(撮影地：宮ヶ瀬ダム)

日常よく見かけます。時にはカラスとの空中戦を繰り広げます。

上昇気流に乗り、大空へ舞い上がり、輪を描きながら「ピーヒョロロ」とひと鳴きです。

タカ科に属する猛禽類、江の島、鎌倉で弁当が持ち去られた経験はありますか。